

鳥獣被害対策を指導することができる人材を育成する試み(大阪府)

- 府内各地で、獣種・地域の現状に適した技術指導や対策のコーディネートが可能な人材育成のための講習会を実施
- ICT(情報通信)技術等による効率的な捕獲方法等の知識・技術の向上に係る講習会を実施

取組内容

- 令和元年度までは、檻や柵の適切管理等の指導に重点を置き、地域の状況に応じた被害対策を指導する人材育成のための講習会を実施



座学



現地研修

- 令和3年度は新たに、捕獲効率の向上や、対策に取り組む方々の高齢化に対応するため、檻をスマートフォンで操作でき、捕獲すればアラームで知らせるなどのICTを活用した省力化技術・知識の向上に係る講習会を実施



座学



ICT機器紹介



現地研修

- 各地域の被害状況を踏まえ、農業者や猟友会のリーダー、市町村担当職員等に対し、平成30年度と令和元年度は、対策指導人材育成講習会を府内各地で8回開催
- 令和3年度は、ICT機器活用のポイントについて4回、イノシシ対策について2回開催

成果

- 被害対策の指導人材の知識・技術の習得や意識の醸成
- 講習会を実施した市町村の内、最も成果のあった市町村では、平成30年から令和2年にかけて被害額が約434万円減少

鳥獣被害対策を指導することができる人材を育成する試み(大阪府)

きっかけ・背景

- 獣種・地域の現状に適した対策技術の普及が必要
- 限られた人数で、府内各地の隅々まで指導を行うのは困難

課題

- 府内各地で、現状に適した技術指導や対策のコーディネートが可能な人材の育成が必要

Step1

- 設置から年月の経った檻や防護柵が増加
- 効果維持のため、適正な管理手法及び周辺の生息環境管理に重点を置き、地域の状況に応じた被害対策を指導する人材育成のための講習会を実施



座学



ICT機器紹介



現地研修

Step2

- さらなる被害軽減には、これまでの対策に加え、捕獲効率の向上や高齢化への対応等、地域それぞれの実情に応じた適切な対策のコーディネートが必要なことから、ICTを活用した省力化技術・知識の向上に係る講習会を実施

取組の特色

- 各地域の被害状況を踏まえ、農業者や猟友会のリーダー、市町村担当職員等に対し、平成30年度と令和元年度は、対策指導人材育成講習会を府内各地で8回開催
- 令和3年度は、ICT機器活用のポイントについて4回、イノシシ対策について2回開催

取組による成果・効果

- 被害対策の指導人材の知識・技術の習得や意識の醸成
- 講習会を実施した市町村の内、最も成果のあった市町村では、平成30年から令和2年にかけて被害額が約434万円減少